

論文番号 56

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Light-to-moderate alcohol consumption, risk factor profile and early atherosclerosis: the RIAD study

軽度から中等量アルコール摂取、危険因子プロフィールと初期動脈硬化病変—RIAD 研究—
執筆者

Temelkova-Kurktschiev T, Henkel E, Koehler C, Hanefeld M

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Atherosclerosis 2001; 156: 239-240

キーワード

アルコール摂取、危険因子、頸動脈超音波検査、内膜中膜複合体 (IMT)

要旨

背景

軽度から中等量アルコール摂取は虚血性心疾患や脳梗塞のリスクを低減させると言われているが、早期の動脈硬化性病変の評価指標である頸動脈内膜中膜複合体 (IMT) と飲酒習慣の関連を検討した報告は少ない。

対象と方法

RIAD (Risk Factors in IGT for Atherosclerosis and Diabetes) 研究は、家族歴や肥満、脂質代謝異常を持つ糖尿病発症リスクの高い集団で構成されている。本研究は RIAD 研究の対象者から 576 人を選んで B モード超音波検査により頸動脈の IMT を測定し、総頸動脈遠位部の左右を平均した IMT の厚さ、および IMT の最大値 (IMT_{max}) を計測した。また対象者には脂質、耐糖能、凝固・線溶系に関する血液検査、身体計測等を実施した。飲酒習慣は、非飲酒、時々飲酒 (週 4drink 未満)、中等度飲酒 (週 4~14drink)、大量飲酒 (週 14drink を超える) に分類した。

結果

性、年齢、喫煙を調整して飲酒習慣と各検査所見の関連をみた。飲酒と血圧、BMI、脂質、インスリン、インスリン抵抗性、負荷後血糖、フィブリノーゲン、PAI-1、尿中微量アルブミン量の間には U 字または J 字型の関連が認められ、ほとんどの項目で有意差を認めた。これらの検査データは、非飲酒群や大量飲酒群に比し、時々飲酒群または中等度飲酒群で最も良好な所見を示した。IMT、IMT_{max} も中等度飲酒群で最も小さい傾向を示したが有意差は示さなかった。

結論

糖尿病発症リスクの高い集団において、軽度から中等度の飲酒者は、脂質、耐糖能、凝固・線溶系に関する各種検査で、非飲酒者や大量飲酒者に比べてより良好な所見を示した。しかし良好なリスクプロフィールにもかかわらず、早期動脈硬化の指標である頸動脈頸動脈内膜中膜複合体 (IMT) の計測値には有意な差はなく、今後、この点の検討が必要である。